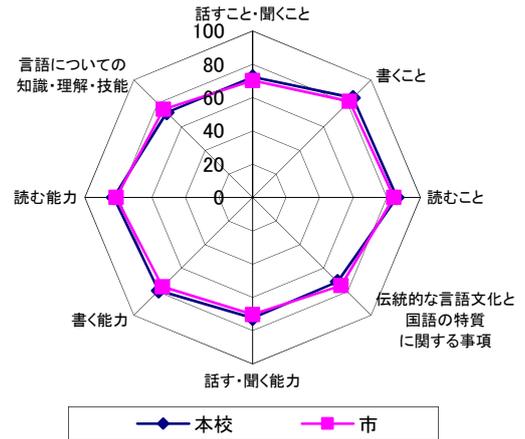


# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.4	70.3	68.2
	書くこと	84.8	81.7	80.6
	読むこと	86.1	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	72.4	70.3	68.2
	書く能力	79.0	76.0	74.1
	読む能力	82.7	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	72.3	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.1ポイント上回っている。特に、司会者の役割を理解して、計画的に話し合う場面を想定した問題では、市の正答率50.0%に比べて正答率57.1%で7.1ポイント高い。	○今後も引き続き、話し合い活動を授業の中に意図的に設け、司会者の役割を体験的に理解させていく。また、読書活動を推奨し、筆者の考えや物事の言い回しに触れさせていく。
書くこと	○領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると3.1ポイント上回っている。特に、2段落構成で文章を書く問題では、市の正答率81.5%に比べて正答率88.1%で6.6ポイント高い。	○文字数や段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書いたりする活動を繰り返し、書く力の更なる向上を図っていく。
読むこと	○領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.8ポイント上回っている。特に、登場人物の心情を読み取る問題では、市の答率90.4%に比べて正答率97.6%で7.2ポイント高い。 ●文章の内容を的確に読み取る問題では、3問中2問が市の平均正答率より5ポイント前後下回っており、正確に読み取れていない実態が見られる。	○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えられるような演習の機会を設けていく。その際に、場面の描写や登場人物の心情の変化に着目させていくとともに接続詞などにも着目するよう注意を促して文章を正確に読み取らせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると3.1ポイント下回っている。特に、5学年の配当漢字を書く問題では、本校の正答率が市の正答率と比べて26.3ポイント低い問題もあり、漢字の習得に課題が見られる。	○授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に練習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。また、習った漢字は使って書くという習慣を身につけさせる。

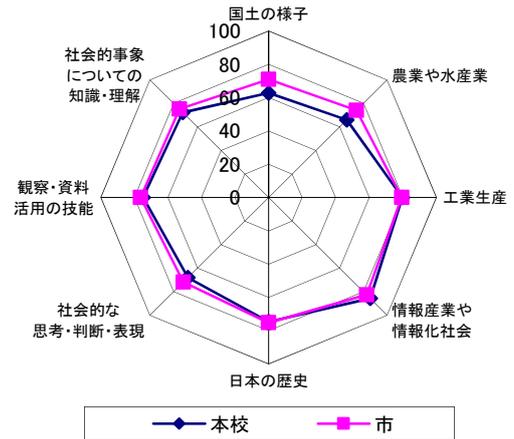
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	62.9	71.0	69.4
	農業や水産業	66.1	74.0	69.0
	工業生産	79.8	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	85.7	82.8	88.7
	日本の歴史	74.6	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.1	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	74.8	76.3	70.7
	社会的現象についての知識・理解	72.3	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

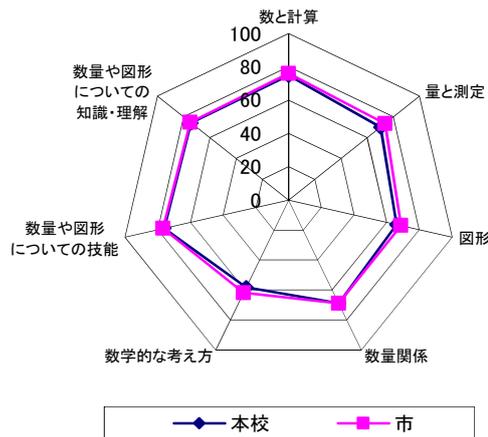
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●領域全体の平均正答率は市の平均正答率と比較すると8.1ポイント下回っている。特に、国土の主な山脈、川、平野の名称についての問題では市の正答率60.2%と比べ、本校の正答率は35.7%で24.5ポイント低い。	・プリント学習を取り入れ、繰り返し練習する機会を設けて定着を図っていく。日本の周辺の海洋名、日本の地形に関しては、地図帳を活用して視覚的に理解させながら復習していく。
農業や水産業	●領域全体の平均正答率は市の平均正答率と比較すると7.9ポイント下回っている。日本が食糧確保においてかかえる問題について、資料を読み取る問題では、市の正答率49.3%と比べ、本校の正答率は38.1%で11.2ポイント低い。	・日本の農業や水産業に関しては、教科書だけでなく映像資料などを活用し、視覚的に理解を深めていく。また、繰り返し演習をする機会を設けて定着を図っていく。
工業生産	○領域全体の平均正答率は市の平均正答率と比較すると0.4ポイント上回っている。工業生産に従事している人々による、環境保全のための工夫や努力について問う問題では市の正答率93.9%と比べ、本校の正答率は95.2%で1.3ポイント高い。	・調べ学習を取り入れ発表する機会を取り入れる。また、教科書だけでなく資料集やデジタル教科書を活用し、視覚的に理解を深めていく。
情報産業や情報化社会	○市の平均正答率を2.9ポイント高い。医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことに関して資料を読み取る問題では、市の正答率71.1%と比べ、本校の正答率は76.2%で5.1ポイント高い。	授業や宿題などを通して、テレビや新聞に触れる機会を増やしていく。また携帯電話など児童に身近な話題を取り入れながら具体的なイメージを持たせて授業を行っていく。
日本の歴史	●領域全体の平均正答率は市の平均正答率と比較すると0.6ポイント下回っている。日本の歴史の書院造がみられる銀閣のことを問う問題では、市の正答率84.9%と比べ、本校の正答率は92.9%で8ポイント高いが、源頼朝が鎌倉幕府を開いた背景について、複数の資料をもとに考えて、表現する問題では市の正答率70.5%と比べ、本校の正答率は59.5%で11ポイント低い。	・各時代の主な人物や出来事などについて確認するとともに、その人物が行ったことや出来事が世の中や人々の生活をどのように変化させたかについても確認させ理解を深めていく。またプリント学習を取り入れ、繰り返し演習をして定着を図っていく。

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	76.1	73.5
	量と測定	70.2	73.6	70.1
	図形	66.1	68.8	66.6
	数量関係	68.9	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	58.2	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	76.0	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	74.4	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

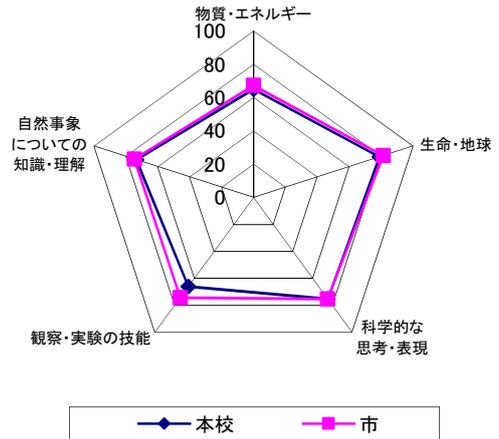
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●領域全体の平均正答率は1.2ポイント下回っている。分数÷分数(約分あり)の計算が、市の平均正答率と比較すると11.9ポイント低い。</li> <li>○整数を偶数と奇数に類別する問題では、市の平均正答率と比較すると14.4ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算ドリル等を活用して、繰り返し練習をして定着を図っていく。また、約分も入っている分数のわり算の計算を、約分の仕方も含めて復習していく。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●領域全体の平均正答率は3.4ポイント下回っている。シートの面積と人数から割合を求め、どのグループが混んでいるのかを考察する問題が、市の平均正答率と比較すると16.9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量にあたる比較量を割合を使って考察する問題では、単位量あたりの大きさをイメージしていくことに難がある。単位量あたりの大きさを比較する際には、線分図や図に表して課題を具体的に捉え、見通しを立てて解決できるようにしていく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●領域全体の平均正答率は2.7ポイント下回っている。六角形の対称の軸に対応する点を見つける問題が、市の平均正答率と比較すると7.4ポイント低い。</li> <li>○点対称の図形を選択する問題では、市の平均正答率と比較すると6.6ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の持つ特徴を再確認し、具体物を使って操作する活動を通して定着を図る。また、線対称や点対称な図形では、繰り返し作図させることによって対応する点について、視覚的に理解を深めるようにしていく。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○領域全体の平均正答率は同程度である。文字を使って2つの数量の関係を式に表す問題では、市の平均正答率と比較すると10.7ポイント、比例の関係を式に表す問題では、6.8ポイント上回っている。</li> <li>●円グラフから割合を読み取る問題では、市の平均正答率と比較すると10.5ポイント低い。また、円グラフの割合を読み取り、比較量を求める問題も、市の平均正答率より7.3ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円グラフが用いられている身近な例を思い起こさせ、目的に応じて資料を円グラフに表したり、特徴を読み取りたりできるように演習をしていく。また、グラフから読み取り、比較量を求める演習も合わせて行う。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.1	67.3	64.4
	生命・地球	78.9	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	75.3	75.3	72.6
	観察・実験の技能	66.0	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	73.4	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.2ポイント下回っている。特に振りこが1往復する時間とふれはばの関係を調べるための対照実験を行う問題では、本校の正答率は、47.6%で、市の正答率61.9%に比べて14.3ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の目的や方法を確認する時間を十分に設け、条件を意識して実験に取り組むことができるようにするとともに、考察を自分の言葉で書かせ、分かったことを整理して覚えられるようにする。</li> <li>・計算をしながら実験結果をまとめていくことに課題が見られるため、計算やグラフ、表の読み取りなど算数の授業との関連も図りながら、実験技能の習得を図っていく。</li> </ul>
生命・地球	●領域全体の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.4ポイント下回っている。特に受精卵の名前を問う問題では、本校の正答率は、47.6%で、市の正答率63.6%に比べて16ポイント低い。○月と太陽に付いての問題では、3問全て市の平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意図を十分に読み取らずに解答してしまう様子が見られるため、問題文を注意深く読み取って解答する練習を普段の授業で行うとともに、理科学用語についても、機会を捉えて繰り返し取り上げ、知識の定着を図る。</li> <li>・天体などの複雑な動きをとらえやすくするため、引き続き教材やワークシートを工夫し、イメージを掴みながら理解できるようにしていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動の活性化を図る	・まとまった言葉として発表することに抵抗のある児童に対して、ICT機器などを有効に活用して表現方法のバリエーションを増やし、苦手意識の軽減に努める。	・長さや段落構成を意識しながら、自分の考えを文章に表す問題の正答率は2問とも88.1%と市の均正答率85.1%を上回っている。
言葉を意識した指導を行う	・重要語句や条件をくり返し意識させるために、授業のたびに繰り返し提示したり、デジタル教科書や模造紙などを使って大切な言葉を視覚的に確認させたりして、言葉に対する意識を高める。	・社会で人物の名前や出来事を問う問題や理科の受精卵などの用語を書いたりする問題に課題が多く見られた。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・言葉に関する意識を高め、文章読解力の伸長を図るため、授業に言語活動を意識的に取り入れるとともに、文章の仕組みを考えたり語彙を増やしたりする授業に全学年共通理解のもと重点的に取り組んでいく。
- ・各教科や学校生活全般において、言葉を取り上げて意識させる活動を多く取り入れ、言葉に対する意識を高めていく。